

放射線に関するQ & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、このQ & Aを連載していきます。

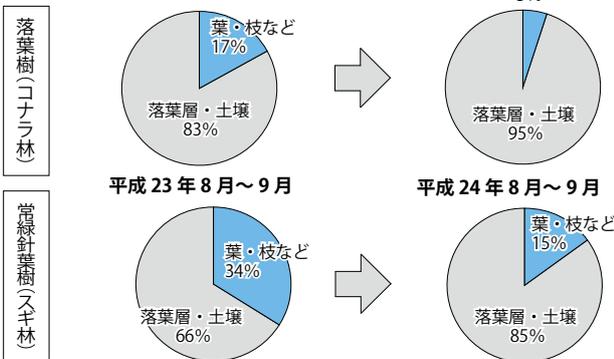
監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q 森林の放射性物質は、現在どこに存在しているのですか？

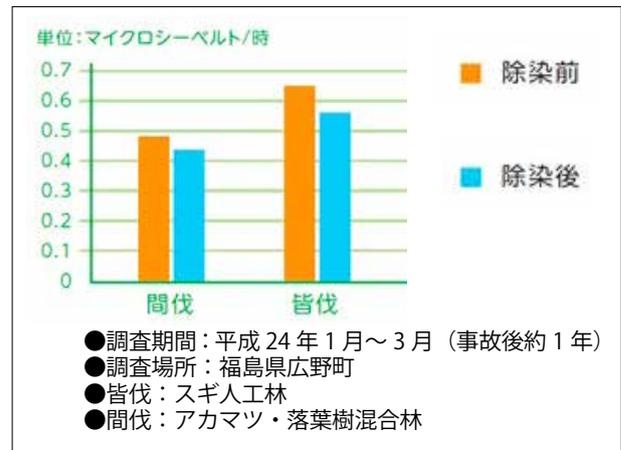
A 落葉樹(サクラなど)と針葉樹(スギ、マツなど)では放射性物質の付着の仕方が異なります。福島第一原子力発電所の事故当時、落葉樹には葉が付いていなかったため、放射性物質の一部は枝や幹に付着しましたが、その大部分は森林の土壌や落ち葉、落ち枝などへ付着しました。それに対して針葉樹では、3～4年にかけて葉が生え変わるため、事故当初は主に葉や枝に付着しましたが、その後徐々に落ち葉と落ち枝、土壌へと移行しています。放射性物質は土壌と強固に結合する性質があるため、その場所にとどまる傾向が強いですが、一部は雨風によって流され、泥などが集まりやすい場所に移動しています。

【放射性物質の割合】



Q 樹木の伐採によって放射線量は下がりますか？

A 福島第一原子力発電所の事故後、間伐による空間線量の変化について調べる試験が行われました。間伐を行った場合、空間線量は図のようにやや低下するものの(8%程度)、大きな変化は見られませんでした。その理由は、上述のように放射性物質は、その多くが枝や幹には存在せず、落ち葉や落ち枝、土壌側にあるためと考えられました。この結果に基づき、相馬市では樹木の伐採よりも落ち葉や落ち枝、土壌の除去を重点的に行う方針としています。現在、市では除染作業で落ち葉や落ち枝などの除去は行っていますが、樹木の伐採は行っていません。



↑ 出典：林野庁(森林総合研究所)
← 出典：林野庁

出典および参考資料：環境省 除染情報プラザ ホームページ

ハンドブック「家のそばの森はどうやって除染するの?～森林除染について～」

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

●問い合わせ先 放射能対策室 (☎ 37 2270)

これまでの食品の検査結果は相馬市ホームページ内の放射線に関するページで公表しています。
<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●相馬市で出荷制限などを受けている食品(6月30日現在)
▽キウイフルーツ▽クリ▽くさそてつ(こごみ)▽たけのこ▽ふきのとう(野生)▽ぜんまい▽たらの芽(野生)▽原木しいたけ(露地)▽原木なめこ(露地)▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど(野生)▽牛(県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く)

▽基準値を超えた食品 1件(内訳：茶葉1件)
●6月分
▽測定件数 171件(野菜90件、果実37件、魚18件、山菜・きのこ8件、新米1件、古米1件、その他16件)

自家消費野菜などの放射性物質測定結果